

千年の都・鴨川清流プラン

～具体的施策を進めるにあたっての配慮事項等について～

鴨川フォローアップ委員会、鴨川府民会議等での主なご意見

① 京都らしさ、鴨川らしさに対する配慮について

- 鴨川は、上賀茂神社、下鴨神社、貴船神社と深く関係があり、神聖な川であることを強調すべきである。
- 京都ならではの、鴨川ならではの付加価値をつけた整備が大事である。
- 繁華街の中にあって落ち着いた空間があるのが、鴨川の大きな価値である。
- 型通りでなく、京都らしさを強調していただきたい。

② 実施段階における配慮について

- 防災用の照明であっても、常時同じ部分に照明を当て続けることは、植物・動物に多くの影響を与える。
- 光は成長量、寿命などに大きな影響を与える。植物では、照明が当たっている部分の紅葉は遅くなる。水中の生き物(幼虫)は移動能力が乏しいので、影響が大きい。
- よりよい鴨川の保全にはホタルだけでなく、多くの生き物への配慮が必要である。
- 照明は、神社の境内に使われているような色合いなどを参考にすること。
- 落差工や護岸の改修時には、河床高をできるだけ下げて淵や深みの保全に配慮いただきたい。
- 魚道設置では、外来魚の性質を十分把握すること。

具体的施策を進めるにあたっての取組み

実施にあたって配慮すべき観点

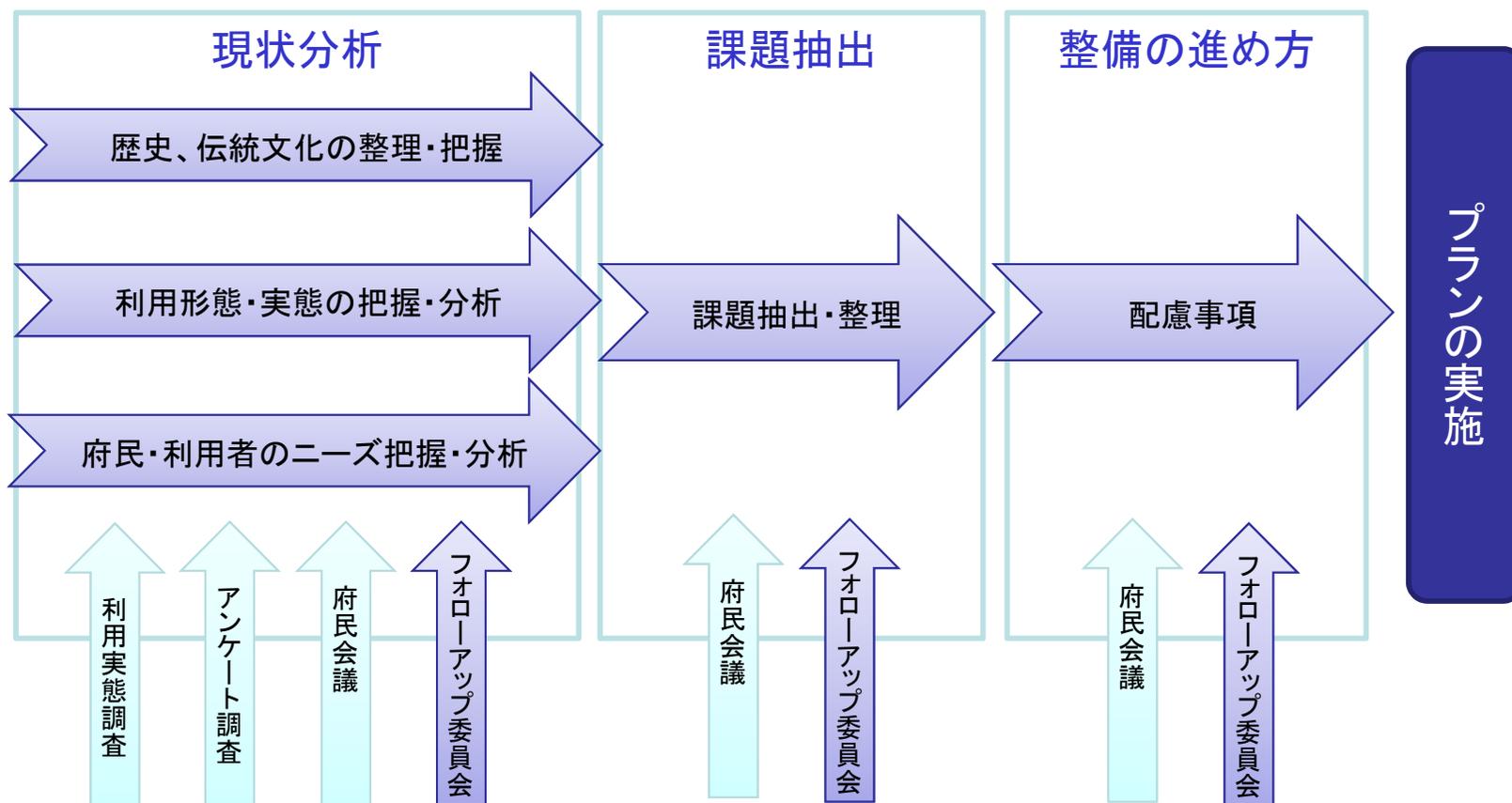
- ① 京都らしさ、鴨川らしさを次世代に伝えるための観点
歴史、伝統・文化、景観、街との調和、品格を尊重する。
- ② 清流にふさわしい自然環境の保全、都市景観の形成の観点
鴨川にしかない自然環境、都市景観を保全する。
- ③ 新しい鴨川文化の発信の観点
既存の歴史、伝統・文化等を尊重し、府民や利用者のニーズを取り入れながら、新しい鴨川文化を発信する。

個々の施策の進め方

- ① 利用実態調査等の実施
鴨川における利用形態、課題やニーズの把握及び分析を実施し、具体的施策に反映させる。
- ② 府民意見の反映
鴨川フォローアップ委員会、鴨川府民会議等で学識経験者や専門家、府民の意見を広く聴取する。
- ③ PDCAサイクルの実施
持続可能で効率的な整備や管理を行うための仕組みづくりを進める。

検討プロセス

京都らしさ、鴨川らしさに配慮した整備を進めるために、鴨川の歴史や伝統・文化、景観等を整理、分析するとともに、利用形態、実態を把握する。さらに府民及び利用者のニーズの把握・分析を行い、これらの結果を踏まえて課題抽出・整理を行い、配慮事項をとりまとめてプランに反映させる。



花の回廊を整備した際の事例（参考）

花の回廊の整備にあたっては、計画のコンセプトを盛り込んだイメージパースを作成し、整備内容や方法を確認し、整備を実施した。これら既往の手法等を参考にしながら、具体的施策を進めるものとする。



花の回廊を整備した際に作成したイメージパース

京都らしい歴史性を演出する川づくりを進め、花と花見(人)、花と遊興といった観点から花を媒介に現代における府民・市民の新しい交流空間と京都の華やかな水辺空間の形成をめざした整備を実施。

- 現存の大木をできるだけ残しながら新しくシダレザクラを中心に色々な里桜を植樹し、府民とともに次世代に通じる「平成の桜並木」をめざした。
- 京都の長い歴史で愛されてきた桜は、自生種であるヤマザクラやシダレザクラをはじめとする味わいの深い色々な里桜である。これら里桜は種類も豊富で、花の色や形、開花時期もいろいろで、風情を語る京都らしい桜であり、植樹にあたっては、これらの里桜を中心に植樹した。
- 鴨東線側に中低木による緑の垣根をつくり、西岸からの景観にも配慮した。
- 京都の歴史性や伝統文化に配慮するため、石積護岸や石畳をとした。

魚道設置に対する配慮事項

- 鴨川の上流部の落差工は、北山等の背景と一体となって鴨川の美しい景観を構成する要素の一つとなっており、魚道の設置位置や形状等の設計に際しては、景観の観点からの検討も実施する。
- 魚道による連続性の改善とともに移動先の環境での生物の生息、繁殖環境の保全、再生の観点からの検討を実施する。
- 検討にあたっては、専門家等の意見を参考にするとともに、他河川等の整備事例も十分参考にする。



鴨川にはいくつもの落差工があり、一様にとうとうと流れ落ちる様は、鴨川を代表する景観を創出している。(出雲路橋から上流を望む)



出町橋上流の落差工に設置された魚道

鴨川ギャラリーに対する配慮事項

- 全体を通して展示内容に統一性が図られるよう配慮する。
→既設の鴨川ギャラリーに対してのアンケート、ヒアリング等を実施し、結果を踏まえた整備を検討する。
- 全ての橋梁下に同じイメージのものを設置するのではなく、周辺景観との調和が図れるように、色調や展示内容を工夫する。
- 支柱の色使いなどは、京都市の景観整備とも整合を図る。
- 利用者の増加を図るため、鴨川単独で考えるのではなく、例えば貴船神社、上賀茂神社、下鴨神社など、鴨川と周囲のつながりのある施設や歴史等を紹介することで、鴨川への関心を高め、理解を深めるよう努める。



縦格子で京都らしさに配慮(検討イメージ)

ライトアップに対する配慮事項

- 寺社をはじめ、周辺の施設等のライトアップの仕方、手段などを参考にし、鴨川らしさに配慮したライトアップとなるように検討を行う。
- 光があたることによって影響を受ける動植物を把握し、一定の場所に常時光があたること等による影響がないか十分検討する。
- 生物にとって影響のない照度や照らす方向、点灯時間等を検討する。
- 必要に応じてフォトモンタージュなどで整備イメージを事前に検証する。



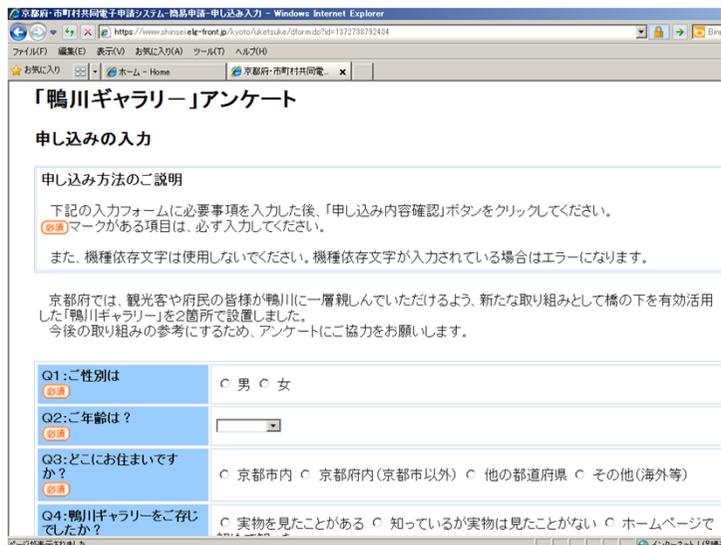
半木の道におけるライトアップの事例

個々の施策の進め方ー利用実態調査等の実施

利用実態調査やアンケート調査等を実施し、鴨川における利用形態やニーズ等を的確に把握分析し、具体的施策に反映させる。

利用場所と利用形態		具体的活動
利用場所	利用形態	
高水敷 水面 水際 堤防	スポーツ	ジョギング、ウォーキング、軽い運動、スポーツ、サイクリングなど
	散策	散策、散歩など
	憩い	憩い、休息、夕涼みなど
	観光	観光
	デート	デート
	自然観察	自然観察、野鳥観察など
	水遊び	水遊び
	コミュニケーション	コミュニケーション
	釣り	釣り
	パフォーマンス	演奏、演舞など
通勤	通勤、通学	
通過	通過	
その他		

具体的活動と利用場所・利用形態の一例



鴨川ギャラリーのアンケート調査(京都府HP)(実施中)



鴨川ジョギング&ウォーキング利用アンケート

あてはまるものに ○ をつけてください。

- あなたのジョギング習慣について
 - ・年代 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代以上
 - ・性別 男性 ・ 女性
 - ・お住まい (府・県 市・郡)
 - ・今回の参加コース ①ウォーキング ②5kmコース ③10kmコース
 - ・ジョギング歴 ①1年未満 ②1~3年 ③4~5年 ④6~10年 ⑤11年以上
 - ・ジョギング頻度 ①1回/週未満 ②1回/週 ③2~3回/週 ④4~5回/週 ⑤毎日
 - ・ジョギング時間帯 ①早朝(〜7時) ②朝(7~10時) ③昼(12~13時) ④夕方(15~18時) ⑤夜(18~21時) ⑥それ以外の時間帯()
 - ・ジョギングの目的 ①記録更新・大会出場 ②健康の維持・増進 ③趣味・楽しみ ④その他()
- この大会をどのようにして知りましたか。
 - ①新聞 ②ホームページ(京都府、京都陸上競技協会、京都市)
 - ③twitter(京都府、その他) ④学校の先生 ⑤メール
 - ⑥募集チラシ(もらった、送られてきた、設置されていた) ⑦ちこみ
- 今回のコースの走り心地
 - ①すごくよかった ②よかった ③ふつう ④わるかった ⑤すごくわるかった
- 今回のコースのよかった点(複数選択可)
 - ①コース延長 ②アップダウン ③景色 ④路面状況 ⑤距離
 - ⑥その他()
- 今回のコースの悪かった点(複数選択可)
 - ①コース延長 ②アップダウン ③景色 ④路面状況 ⑤距離
 - ⑥その他()
- 今回のコースを日ごろから使うためには何を改善したらよいですか。(複数回答可)
 - ①コース延長 ②アップダウン ③景色 ④路面状況 ⑤アクセス ⑥込み具合
 - ⑦ゴミの散乱 ⑧休憩箇所 ⑨距離 ⑩木陰 ⑪その他()
- どのような路面が走りやすいですか。
 - ①アスファルト舗装 ②コンクリート舗装 ③土 ④芝 ⑤その他()
- 9) 自由記述 []

ご協力いただきありがとうございます。アンケートは回収受付でお返しください。結果を呈呈いたします。

高水敷整備に対するアンケート調査

個々の施策の進め方ー府民意見の反映

鴨川フォローアップ委員会、鴨川府民会議等で学識経験者や専門家、府民の意見を広く聴取する。



鴨川府民会議の様子



鴨川フォローアップ委員会の様子

個々の施策の進め方ーPDCAサイクルの実施

フォローアップ委員会において、各施策の実施状況や結果を点検する。これらの点検結果を踏まえて、課題や新たに判明した問題点を分析し、改善策を検討する。必要に応じて計画を見直し、次年度以降の整備に反映させる。このサイクルを繰り返していくことを通じて、鴨川の河川整備を点検し、常にその改善に努めていく。

